

## 第5回南牧村学校づくり委員会 議事録

### 議 事 日 程

平成28年10月11日(火曜日)午後7時00分開会

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 事務局説明
  - ① 県下の過疎地における小中一貫教育の取組み
  - ② 教育専門部会報告「南牧村の教育ヴィジョン」
- 4 意見交換
- 5 その他
- 6 閉 会

---

### 本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

---

### 会議出席委員

|       |       |        |       |      |       |
|-------|-------|--------|-------|------|-------|
| 林 崇介  | 渡邊 壽美 | 高見澤 一男 | 薩田 聡  | 原 和則 | 井出 嘉也 |
| 高見澤 要 | 佐々木 撰 | 矢野 勝彦  | 町田 喜範 | 武井 晃 | 井出 正吉 |
| 新海 勝則 | 菊池 武元 | 渡邊 忠一郎 | 井出 真紀 | 横森 誠 |       |

(以上17名)

欠席3名 坪井 則男 新海 秀幸 吉澤 安則

---

### 事務局職員出席者

|      |       |        |       |
|------|-------|--------|-------|
| 総務課長 | 津金 昇三 | 企画係長   | 井出 聡  |
| 教育次長 | 井出 浩美 | 学校教育係長 | 井出 一生 |

---

### 傍聴人

井出 邦彦 菊池 美奈子 高見澤 みち子

---

開会 午後7時00分

◎開会の宣告

事務局井出次長 それでは皆様、第5回の委員会ご苦労様でございます。会議開催の予定時間になっておりますので、ただ今から始めさせていただきます。開会のことばを副委

員長お願いいたします。

**渡邊壽美 副委員長** みなさん、どうもこんばんは。朝夕気温がすっかり寒くなってまいりました。忙しい中をご苦勞様です。それでは、ただいまより第 5 回学校づくり委員会を開会いたします。よろしくお願いいたします。

---

◎議 事

**事務局井出次長** 林委員長、あいさつをお願いします。

**林崇介 委員長** あらためましてこんばんは。この委員会も 5 月の末にスタートいたしましたから春夏秋と季節が移ってまいりました。その間、何回もの全体会、今日で 5 回目ですが、その間、専門部会でも会議を重ねてまいりました。2 回の視察旅行、そして 1 回の講演、様々な過程を経てこの委員会も次のステージへ移ってきたと思っています。今日は皆さまの活発なご意見をいただければよろしいかと思っています。どうぞ皆様よろしくお願いいたします。それでは引き続き 3 番の事務局説明ということに移らせていただきます。事務局お願いします。

**事務局井出次長** はい、それでは本日、事務局から 2 点説明資料をご用意させていただきました。最初に 1 点目ですが、県下の過疎地における小中一貫教育の取組みということでご説明させていただきたいと思います。お手元に厚いカラーコピーの資料、過疎地域の実情に即した小中一貫校づくりと教育課程の開発という、青い空の写っている資料をご覧ください。これは信州大学の伏木教授という方が、皆様ご視察いただきました信濃町の小中一貫教育についての研究テーマにまとめたものでございます。大変資料厚いですが、これ全部ということではなく、過疎地における実例ということでこの資料の中に出てまいりますので説明させていただきたいと思います。

13 ページをお開き下さい。13 ページの一番上、長野県内においても過疎地の小中一貫教育は徐々に進行しているという記載があります。最初のものは野沢温泉村についての新聞記事等であります。あとお手元に、野沢温泉につきましては別刷りで、野沢温泉村保小中高一貫教育というものをお配りしてございます。詳しい中身には触れませんが、野沢温泉村では小中だけの一貫教育ではなく、保育園から高校までということで、保育園から中学までを一貫教育、そして地元の高校との連携ということで取り組んでいるのであります。この資料については、お帰りになってお読みいただければと思います。野沢温泉村は、前々回のこの委員会で町田校長先生にお話しいただきました、スキー学習というのを地域の特徴ある教育ということで、教育課程の特例校ということになっています。

13 ページに戻ります。二つ目の記事は、塩尻市と辰野町の行政区を跨いだ組合立ということで小野小学校と小野中学校というのがございます。こちら組合立であります。施設分離型の小中一貫教育に取り組んでおります。下の方になりますが、この学校の特色は、たのめの里という土地柄に合わせて、たのめ科というのを教育課程特例校として取

り組んでおります。たのめ科というのは何かというと、地域の特性を生かしたふるさと学習ということで、一番下 3 行になりますが、地域の人々とのふれあいや歴史・文化との出会いから、地域のよさを体験的に学びながら生き方を考える学習であるということであります。この両小野学園については、102 ページをお開きいただきたいと思います。詳しい説明は時間がないので割愛させていただきますが、この両小野学園は、併設でもなく一体でもなく分離型の小中一貫ということで大変特色ある学校であります。この小と中が立地が 1 キロ離れたところにあるなかでの小中一貫であります。103 ページをご覧ください。重点的な 10 の取組みということで、10 点ある中で一番下を見ていただきたいですが、小学校 1 年から外国語活動に取り組んでいまして、1・2 年では 12 時間の授業であったり、3・4 年、5・6 年と時間数も増えていきます。104 ページの一番上、小学校高学年から教科担任制を、5 年生では理数教科を中心に、6 年にあつては 11 月の 1 か月間、小学校 6 年生が中学校へ登校します。たまに見学に行くとかということではなく、1 か月間、中学校で授業をフルタイムで受けるという、大変な小中の連携を進めています。また、音楽会や運動会などの行事を、小中が一緒に行ったり、あるいは職員の連携なども進めているということであります。さきほど、たのめ科ということを申しましたが、授業時間数でいいますと、小学校では年間 55 時間が、たのめ科の授業に割り振られています。概ね 1 週間に 1 時間以上の授業があるということであります。中学校になりましても、35 時間から 47 時間の授業を割り振ってあります。

それでは資料に戻りますが、19 ページをお開きください。前回の委員会でも広瀬の区長さんから、県下の木曽だとか下伊那だとかの取り組みはどうなのでしょうかとご質問が出ていたかと思います。これ資料とすると古いですが、県内それぞれの地区による考え方を分類してあります。表 3-①佐久地域では、佐久穂町がすでに実施しております。20 ページですが、上田市では合併しましたので、菅平の小中がすでに取り組んでいます。東御市では、北御牧小中で施設分離型の一貫教育を目指しています。諏訪地域にまいますが、茅野市が今年、新聞報道がございましたが茅野市全域で施設分離型の小中一貫に取り組むと表明していますし、下諏訪町にしましても昨年からの分離型の小中一貫を行うと宣言をしております。上伊那地域では、辰野町はさきほどの両小野学園でありますし、一番下の飯伊地域では、飯田市がすでに小中一貫・連携に取り組んでいます。次に 21 ページをお願いします。ここから山間地といいますか小さな学校が出てまいりますが、根羽村、売木村、泰阜村では、小中一貫とは言いませんが、校舎が同じ敷地内にあつて渡り廊下でつながっていたりして、小中併設校と記載がありますが、同じ敷地にあるので連携をしている。今までの 2 つの小中一貫とは違いますが連携をしている。それから木曽地域では、木曽町、大滝村でも小中併設校になっています。松本地域になりますが、塩尻市はさきほど触れた両小野学園であり、麻績村にあつては保育園を教育委員会の所管に移し、野沢温泉村のように保育園から中学校までの取り組みを目指しています。22 ページです。筑北村ですが、こちらも保育園から中学校までの一貫した取り組みを目指す

となっています。次に大北地域、大町市の一部ですが、美麻小学校・中学校という所がございます。旧美麻村になりますが、こちらでも施設併設型であります、小中一貫教育に取り組んでいるということで、これは信濃町で聞いたことですが、長野県下で 2 番目の義務教育学校におそくなるのではないかと、29 年度から移行するとお聞きしました。続きまして、小谷村でも保育園から中学校までの連携を考えている。長野地域にあっては、信濃町はご承知のとおりであります。最後に北信地域で、飯山市が幼・保・小・中の連携、木島平では校舎併設型の一貫校づくり、野沢温泉はさきほどのとおりです。

23 ページをお願いいたします。小中併設校という新しい呼び方が出てきているんですけども、23 ページ下の表 4、小中併設校の児童・生徒数ということで、平成 24 年の数字で古いんですが、児童数というのは小学校の子ども数、生徒数というのは中学校の生徒数です。で、合計が書いてあります。どちらの学校も小さいですが、木曽の日義小中、こちらがこの南牧村が数年後になるであろうという予測される人数に近いものです。ということで、義務教育学校や佐久穂町のような小中一貫型学校を見ていただきましたし、本日は小中併設という 8 校がありました。また分離型の一貫校としては、下諏訪や茅野とか市部での取り組みが進んでおります。また、小中連携や保小中の連携に取り組むという学校や自治体が増えているという実情で、24 年度でも 3 割近い自治体で取り組むという割合であります。

25 ページお願いします。さきほどの 8 校の小中併設校の実情ということですが、参考までにご覧いただきたいと思います。表 5、表 6 は職員数、学級数、児童・生徒数、バス通学者数、最長のバス通学者の時間が書いてあります。日義村では、バス通学に 118 分かかって小学校に通っているというのは大変びっくりするところであります。表 6 に各学年ごとの児童数生徒数があります。松本市立大野川小中学校では、小 1 は 1 人、小 2 が 4 人、小 3 が 4 人ということで、ここの段階で既に長野県の複式学級の基準を下回っています。一番下の売木小中学校も、小 3 3 人、小 4 4 人、小 5 が 4 人、小 6 が 3 人とここも複式学級の基準 8 人以下になっています。実際、複式学級になっているかどうかというのは、26 ページの表 7 をご覧ください。二重丸は、正規の県の教員を配置しているもの、講は県費採用講師、市は、市町村費での雇用講師であります。さきほどの大野川小中や売木村小中も複式学級になっておりません。これは村費の先生を充てるなどして、それぞれの自治体で持ち出しで複式にせず学年を維持しているということでもあります。大野川の 1 年生の 1 人というところも、市の予算で先生を 1 名確保しています。そんなやり方で何とか維持しているという県下の 8 つのやり方があります。27 ページをご覧ください。併設校の交流活動としての連携ということで、それぞれクラブ活動や部活動を連携したり、職員会議を合同で行ったり、中学校から小学校への乗り入れ授業を行っているところであります。また、28 ページの表をご覧くださいと、音楽会や運動会を小中一緒に開催したりという取り組みを行っています。以上が長野県下の過疎地における取り組み、考え方の説明とさせていただきます。一旦お返しします。

**林 委員長** はい、どうもありがとうございました。ただいまの事務局の説明の質疑応答は、次に移らせていただきまして、まず次に3番の2番、教育専門部会の報告ということで、専門部会長の武井先生から報告をよろしくお願いします。

**武井晃 教育専門部会長** 教育専門部会は、今まで3回の部会を開催しました。そこで小学校、中学校3校の現状の問題点、さらに今後、児童生徒が減少することによりさらなる課題を議論してきました。そしてこれからの南牧村にふさわしいと思われる教育環境や教育方針を検討してきました。その結果を事務局でまとめていただいたので、これから報告したいと思います。事務局、お願いします。

**事務局井出次長** はい。それではお手元にお配りしてあります資料、望ましい教育環境の実現に向けて、「学校のあり方Q&A集」、教育ヴィジョン「南牧村の学校教育（試案）」という資料をお配りしてありますが、ご覧いただきたいと思います。3回の部会を通してまとめたものでございますが、最初1ページからご覧いただきたいと思います。学校のあり方Q&A集ということで、Q1からQ9までQ&A集にして、目指す教育環境の姿というものを、分かりやすく読みやすくするためにさせていただきました。最初のQ1ですが、今、南牧村において学校のあり方を検討する理由はなんですか、ということで答えを2つ、①と②とあります。①は全国的な教育事情はということを解説しています。少子化という視点で学校の規模が全国的に縮小してきている問題点を解説してございます。次に財政的な面から学校を考えるということで、真中の段落から財政面での視点での解説を、学校予算はどういった予算で成り立っているか、国・県・自治体の負担割合がどうなっているかという解説です。

次に下から4行目、②になりますが、南牧村の教育事情ということで考えてみましょうということでもあります。十数年前に小学校の統合が検討されたということで、その際は少子化に伴う学校の再編ということで1校に統合し、ということが話し合われました。少子化に伴う再編という捉え方で書いてありますが、実情は、当時、町村合併が全国で課題でありました。その際、南牧村は川上村との合併協議があったわけですが、住民アンケートなどで自立を選択したという経緯がございます。自立を選択したゆえの、将来の財政面を配慮した上での小学校の統合という結論になっていたかと思います。あくまでも将来の財政面を配慮してということであったかと思います。2ページですが、ここでは、学校規模が小さくなっていく、学級数が1つになっていく、また経費面でも2校あることによる経費が5千万円かかることと、それから学校の建築年が30年を超えているということを解説してあります。真ん中からは、少子化対策と地方創生の方策ということで、様々な施策や取組みがされるようになり、地域の子どもは地域で育てる、という地域が学校教育に大きく関与することが謳われるようになりました。またこれは小学校だけの問題でなく、中学校の規模が減少し、教職員配置の問題が大変厳しくなってくるのがすでに皆様お分かりですが、最後の行にあります、少子化は小学校の学校規模の問題であると同時に、中学校の学校運営の問題でもあるという結びになっ

ています。

3 ページをお願いします。問の2で学校のあり方を考える必要性は分かりましたが、学校のあり方としてどのような形が考えられますか、との問いに答えが3つ、①②③とありますが、確認の意味でご覧いただきたいですが、1番では、従来の小学校2校、中学校1校の体制を維持する、ということであります。これは、書いてありますが今までと何も変わらずということです。2つ目の選択としては、2つを小学校を統合し小学校1校、中学校1校の体制にするというものであります。現状は北小と南小を統合しても、学級数クラスの数は変わりません。ですので北小の校舎を使うのか、南小の校舎を使うのか、または新しい校舎をいずれかに建設するのかの判断になろうかと思われま。3点目ですが、これは10数年前にはなかった理論になりますが、2つの小学校と中学校を1か所に集めて、小中一貫教育の義務教育学校か、小中一貫型の学校を作るということであります。これからこの委員会の議論としまして、小中一貫教育の検証をしていただきましたので、この3点が当然、議論の方向性になっていくかと考えています。

以下、問いの3から小中一貫教育についての解説になっております。問いの3では小中一貫教育の一貫とはどういう意味か、Q4では9年間を通して教育を考えることについての具体的な説明、5ページに参りますがQ5で、小学校と中学校が同じ歩調ではとどういうことかの解説、6ページでは小中一貫教育にメリットがあるということであるならば、なぜ全ての学校が小中一貫にならないのはなぜかという解説になっております。2か所の視察をしていただいた佐久穂や信濃町は南牧に比べると大変規模が大きな学校であります、Q6のまとめにあります、義務教育学校の設置は、小さいサイズの学校を抱える地域で、これからの学校のあり方を考える上で有効でありますとまとめてあります。Q7では、小中一貫教育は小さい規模の学校間で採用すると有効であるとはどういうことですかという問いに対する回答が少し長いですが、村費講師の採用や乗り入れ授業についての解説をしてあります。Q8は、課題の把握が大切ということですが、教育委員会として南牧村の子ども達の課題をどう捉えているかということで、8ページ9ページにわたり教育課題として2点挙げさせていただきました。1点目は、保育園から同じ集団で過ごすことの教育的なメリット、デメリットを見極めて、少人数の中で自立し、生きる力を備えた子ども達を育む学校教育はどうしたらよいか、2点目は、表現力、コミュニケーション力が十分に身についていない、この2つを課題として捉えております。よく言われますように、いつも顔見知り、いつも同じメンバーで過ごし、子ども達同意のコミュニケーション力が低いんじゃないか表現力が身についていないんじゃないかというようなことをよく言われております。それには多くの子ども達同士がお互いに関わりあって、意見を述べ合いさらに学習を深めていくような力を身につける必要があるということでもあります。最後になりますがQ9で、南牧村で小中一貫教育を具体的に考えたとしたらどんな教育内容になりますかとありますが、ここでは小中一貫教育を進める原点ということで、こういう子ども達を育てるために、こういう教育をするんだよ、考えるんだ

よということがそれぞれで共有されていないと小中一貫教育を進める意味はないという結びになっています。

10 ページ以降では、具体的に南牧村の学校教育をこれからどのようにしていきましょうと、あくまでも試案ではありますが 1 番の教育目標として、ふるさと学習に最重点を置いて、このふるさと南牧村で育ち、この南牧を創造する人づくりをするんだということを教育目標に掲げました。重点についても、南牧村を知って南牧村で学んで南牧村に貢献できるような教育を目指すというものであります。ふるさと学習、そしてことばの学習等について具体的に取り組んでいくというものであります。12 ページ以降はさらに内容面からということで、日本語、英語、あるいは社会に貢献する学習ということで具体的な学習の基礎を作るものです。以降は各学年ごとの授業時間数がありますが、あくまでも例でございます。最後に 16 ページにまとめてありますが、南牧村では現状を考えると小中一貫教育を実施するということが望ましいのではないかと考え、小中一貫教育を実施する意義と記載してございます。小中一貫教育を目指すことで、学校や児童生徒だけでなく、保育所や園児の保護者、行政、さらに住民全体が、生まれてから中学校卒業までの 15 年間を通して、この村で子育てする意味を深め、連続して切れ目のない子ども達への支援が続けられるというところに意義があるということでございます。また 2 点目に、このふるさと学習を学び通して、南牧村は一つだという意識を持ち、自分が育った村に誇りを持てる子ども達を育て、例えば進学のために一旦この村を離れても、将来戻ってきてこの村を創造できるような人材を育むことがこの小中一貫でできるのではないのでしょうか。以下、南牧村が目指す教育ということで 5 点、課題と対応、学童期の育ちと環境と記載してあります。17 ページをご覧ください。まとめになりますけれど南牧村らしい魅力ある学校づくりに向けてということで読みますが、さらなる少子化の進行が予測される中、南牧村が目指す子ども達の姿を実現し、より良い学校教育を発展させ、その結果が地域全体に良い影響をもたらすという観点から、新しい学校づくりに向けた環境整備について具体的に検討します。次に、地域の多様な人々が互いに学び合うような地域全体の教育力の向上と、地域住民が主体的に学校運営に参画し、学校と地域が支え合うための環境整備を図ります。具体的な例ですが、学校施設の複合化を図り、または学校施設の弾力的な運用によって、学校が大人の学びの場たり得るように連携し環境整備をしてまいります。

最後になりますが、この少子化にただ対応するための小中一貫ということだけでなく、これからの少子化を肯定的に捉えて、将来に夢と希望のある南牧村の子育てと教育を実現していくことがたいへん重要になろうかと思えます。そのためには学校だけでなく、地域の活力の向上、地域の教育力の向上と子ども達を支えるネットワークの充実が強く期待されるところであります。さきほどの問 2 の中で、地域の子どもは地域で育てると記載がありましたが、もっと言いますと、地域の子どもは地域の責任で育てるということになろうかと思えます。教育専門部会では、小中一貫教育というものがこれからの南牧

村の教育環境に最善ではないかとのことでありますが、あくまでもこの目的は、小中一貫校を作ることが目的ではありません。あるいは小学校の統合についても同じです。統合することが目的ではありません。こういう子ども達を育てるんだというのが教育目標であり、その教育目標を実現するためにこういう教育をすることが目的であって、それがふるさと学習であり、ふるさと南牧村を学ぶということであります。あくまでも小中一貫教育というのは、教育目標を実現するための手段であって、小中一貫教育が望ましいものではないかというのが、教育専門部会で検討したものであります。第 1 回目の資料におつけたんですが、今回この学校づくり委員会の検討内容というのは、最初に、どんな学校をつくるのかということを検討し、こういう新しい学校を作るんだよと、こういう教育をするんだよと。それをふまえた上で、2 つある小学校をどうするのか、あるいは中学校をどうするのかという議論にしていっていただきたいということでございます。まとめませんが、望ましい教育環境の実現に向けてという、教育専門部会の発表にさせていただきます。

**林 委員長** はい、どうもありがとうございました。それでは、3 番の 1 番、県下過疎地における小中一貫教育の取組みについての質疑、そしてただいまの教育専門部会報告、南牧村の教育ヴィジョンについての質疑ございましたら、各委員さんからお願いしたいんですが。活字としては非常に多い量でしたけれども、この委員会の様々な側面で断片的に出てきた問題を捉えているということを思い起こせば、だいたい焦点が合ってくる気がいたしますが、特に質問、細かいことでも結構ですが。特になければですね、私の方から 17 ページの上のところ、丸 2 つ目の、学校施設の複合化を図る、さきほど地域の責任で学校運営に当たるということがございましたが、学校施設の複合化ということは具体的にはどういうことなんでしょう。

**事務局井出次長** はい。あくまでもいろいろなケース、いろいろなやり方ができるかと思えます。住民の学びとなるような、例えば住民の学びという実際にある一例ですが、図書館を学校の図書室と併設して作る。あるいはコミュニティセンターを、併設したり同じ敷地に作る。それから、現在、放課後の児童クラブという子どもの学び・見守りの場をそれぞれこの 2 階でもやっていますし、野辺山保育園の敷地に児童クラブがありやっていますが、そういった施設を学校と同じ場所に作ったりということが考えられます。あくまでも事例でということですけども。

**林 委員長** はい、ありがとうございました。かなり話が見えてまいったと思うんですが、他に質問ございましたら各委員さんからよろしくお願いします。

特に無ければ 4 番の意見交換に移らせていただいて、その中に質疑が入ってきてもいいと考えますので、意見交換ということで、今までの委員会を通じての、あるいは本日の委員会を通しての様々なご意見があらうかと思いますが、どんなことでも結構ですので切り出していただければと思います。陽気もだいぶ寒くなってまいりまして活発な意見も出しにくいかと思いますが、場合によってはご指名することになるかと思いますが



よろしくお願いします。意見交換の話の突破口として、第 2 回で、小学校をそのまま存続する、要するに今と学校形態は変えないということに皆様のご意見を伺いました。その時に、今のままでいいという意見はゼロでございました。その意見をなくしてしまおうということではありませんけれども、やはり今まで視察等経て、互いに 2 校存続したいんだという意見は委員さんにどちらかにありますでしょうか。お伺いいたします。積極的にそのまま残すという意見は、この第 5 回に出なかったということは議事録として残るかと思いますが、だからといってそれをゼロにしてしまうということは、今のところ考えないですが、この会議ではもう一度伺いしても出なかったということは資料に残しておきたいと思います。そうするとですね、さっきの専門部会長から続いて細かい事務局の説明ございました。南牧村の教育論、新しい姿、どういう形がいいんだと、ということで考えてきたときに、さきほど望ましい教育環境の実現に向けての資料の 3 ページの Q2 に対する A2、以下①②③という項目がございます。①は、さきほど皆様にお伺いした南小、北小そのまま残すというご意見をお伺いして、再度そうしようというご意見はなかったと確認しました。そうしますと 2 番 3 番をもう一度読ませていただきますね。2 番、2 つに小学校を統合し、小学校 1、中学校 1 の体制にする。これは統合しても学級の数が変わりませんので、北小の校舎を使うか、南小を使うか、新しい校舎を建設するのかの判断が必要です。中学校は①と同じで従来通りということでございます。もう一つ 3 番の、様々な事務局の説明の中に出てきました 2 つの小学校と中学校を一か所に集め、小中一貫教育の義務教育学校又は小中一貫型学校の体制にする。施設一体型の義務教育学校にするには、いずれかに施設を集中させる必要があります。どこに集中させるかによらず新增築の必要性が出てきます、ということでございます。この委員会での論議の集中は、この 2 番と 3 番に移ってくるように思いますが、今の委員長の説明に対していろいろご意見承れるかと思いますがいかがでしょうか。委員長は会議の進行が、同じことの繰り返しとか振出しに戻っていくということが無いようにしていくのが委員長の務めの一つであると思いますが、私も委員の一人としては、2 番と 3 番について積極的に考えて行くことがこの学校づくり委員会の最大の責務と考えているところであります。是非ご意見を賜りたいと思いますが。区長さん方にお伺いいたします。二人の区長さんが欠席なのでいかがでしょう、広瀬の区長さん。

**菊池武元 委員** もう一度、なんでしょうか。違うこと考えてて。

**林 委員長** 3 ページの、望ましい教育環境の実現に向けて、という Q&A 集の 3 ページの Q2 に対する A2 の①②③という選択肢でございます。①は今のところはないということでございますので②と③、二つの小学校を統合し小学校 1、中学校 1 の体制にする、もう一つは 3 番の二つの小学校と一つの中学校を一か所に集め、小中一貫教育の義務教育学校を作るというのが南牧村の姿ではないかと専門部会から意見が出てまいりました。そのことについて、ご意見を承れればと思いますが。

**菊池武元 委員** 違う人に。

**林 委員長** はい、のちほど伺うことにいたします。いかがでしょうか。海ノ口の区長さん。

**新海勝則 委員** 3 番の小中一貫教育の義務教育学校と小中一貫型学校の体制に作る、これ 2 種類の学校があるんですよね。これは外見は同じということですよ。小学校と中学校が同じ敷地の中にできて。要するに中身が、信濃町の形と佐久穂のということだけですよ。専門部会ではどちらという意見出たんでしょう。どちらがいいというような。

**林 委員長** はい、次長お願いします。

**事務局井出次長** 教育専門部会で、その体制までの議論はしておりません。あくまでも、この教育ヴィジョン、ふるさと学習を中心にしていくための南牧の教育を進めるということであって、それを実現するための手段として小中一貫が一番ふさわしいのではないだろうかということでありますので、実現できるのであれば義務教育学校であっても小中一貫型であっても構わないと思います。但しですね、さきほども説明をしましたが義務教育学校は小さい規模の町村といいますか学校ほどそのメリットが大きい、ふさわしいということは結論として持っています。分かりづらくて申し訳ありません。

**新海勝則 委員** なんとなく分かりました。要するに器は同じということですね、小中一貫と義務教育学校は。あと中身はいろいろ進めばどちらかになる。2 番の場合は、小学校だけの統合で中学校と小学校は離れているという形を考えているということで、2 番は。分かりました。私の意見としては、3 番の、どうせ考えるんだったら。中身はまだ勉強不足で分からないんですけど。形としては、小中併設型というのが形としてはいいと思いますけど。

**林 委員長** 新海区長さん、どうもありがとうございました。平沢の区長さん、忠一郎さんね。第 1 回目は他の委員さんでしたので、なかなか入り込み難いかと思いますが、何か一言、今までを通じてご意見賜ればと思います。

**渡邊忠一郎 委員** はい分かりました。前回の信濃町は、事情があって欠席してすみませんでした。それで今の小中一貫の問題なんですけれど、私としては、理想は 3 番が理想なんですけれど、小中一貫になると敷地の面でも大変だと思うし、まず場所ですよ。この村の中心に持って行くとか、役場は下にあるから役場に持ってくとか、いろんな意見があると思うんで、結構その点を今から話し合って詰めてったり、2 番の小中一貫で別々にという 2 か所という考えになってくるので、それもまた大変じゃないかと思うんですけどね。理想はやっぱり 3 番なんですけれど。敷地的に、今ある北小、南小、中学校だけでは収まらないと思うんですよ。その点を今から検討していかないと、理想は 3 番なんですけど。ですけれど場所と敷地の問題が出てきますね。

**林 委員長** 平沢の区長さん、貴重なご意見ありがとうございました。確かに、どこへ設置するかとか、その用地買収の問題は大変な労力を伴う仕事でございますが、学校づくり委員会は、とにかくどういう学校形態にするか、義務教育学校にするか、あるいは小中一貫型にするか、あるいはほかの形を選ぶかという基本的なものをとにかくここで設定すると。次の委員会に用地買収とか建設の問題は担っていただくということにして、執

行スピードを速めるといいますかこんがらないようにしていくという配慮があるかと思っています。ありがとうございました。海尻の区長さんいかがでしょう。

**井出正吉 委員** ヴィジョンの中に、一番最後のまとめが書いてあります。具体的なようでない感じですが、学校を良くしていくには、学校だけを考えていいヴィジョンを立ててもいい学校にはならないと思います。それには子ども達が南牧村のことをよその市町村の人達に誇りを持って話ができる、一部の子どもさん達の話の聞くと、生まれはどこですかという村っていうのがやだという子どもさんもおります。村でも堂々と言えるような、行政関係また地域の住民関係、それでこの村が素晴らしい村だと言えるようにしながら学校と提携をしながら学校づくり、ヴィジョンの中にそういうことを盛り込んでいただければどんなにいいヴィジョンの中身を作っても駄目じゃないかなと気がします。それにはやっぱり小さい学校でどうこうするよりも、できれば小中一貫、それには二通りありますが、どちらでも同じだと思います。それには、こういう学校づくりをする、こういう村づくりをする、そういう方針を決めれば義務教育学校であろうと他であろうと同じではないかと思っています。これは自分の考えですが、視察した中で、やっぱりそこに村、教育委員会の方針で学校のヴィジョンとか進め方とか決まるんじゃないかと。格好でなくて中身。それで子ども達が誇りを持てるような教育。教育するには、教育だけじゃなくて村づくりもそこに一番大事な要素があるんじゃないかと考えています。

**林 委員長** ありがとうございます。確かに今、全くその通りでございます。今回私たちもその考えを中心にして、進めていきたいと思っています。ありがとうございました。公募の委員さん方、誠さんいかがでしょうね。一つご意見よろしくお願いします。

**横森誠 委員** だいたいの方針が今よく、2番3番ですか、見えてきたような気がします。そしていま私たちが考えることは、野沢温泉の資料ですけど、2ページに、平成20年の5月から始まってとありますので、一貫教育の方針を定めるのに4年くらいかかっているんですね。やっぱりいろいろ研究してそういう方向に進めばいいなという感じがするんですけど。それには多くの村民の意見とか、そういうものをもっと聞いてこの方向に進んだらいいと思うんですね。それにはやっぱり以前にもあったんですけど、今ある小学校がもっと交流するとか、そういうことってものすごく大事だと思うんですね。まずその辺から始めて行かなければなかなか一貫教育になるにも大変じゃないかなと思うんです。だから前回そういうことで時間的に無理があるような話があったんですけど、そういうことを多くなるべく進めたほうがいいんじゃないかなと、前回の時もそんなこと受けたんですけど。北小と南小がもっと交流を持つとか、運動会とか一緒にやるとか、そういうこともっと多くしたほうがいいんじゃないかという感じを受けます。長い年月掛けて一貫学校にしていって、そういう方針には時間をもっとかけなければなかなか進んでいかないと思うんですね。南牧村の目標で大体行っているのか、そういうのが私たちとしては聞きたいところでもあるんです。以上です。

**林 委員長** 私たちは10年前に、学校の問題どうするかと、大きな問題提起がございました、その際に小学校統合不可という結論に至って10年経って参りました。私は一委員として思うのは、この10年を無駄にしないという気がいたしております。だからたくさん時間をかけてということも大切なことですけれども、その10年過ぎてきたということも考えて次のステージに進む必要があらうかと思っておりますが、誠さんの意見の、この前の委員会に出ましたけれども、北小・南小、合同で見学に行くとか様々な試みが現在既になさっているわけで、両校長先生にはなかなか頭が痛い問題であらうかと思いますが、その辺についてもう一つ敢えて進めるという、今、横森委員さんの問いかけに対してお答えいただけることもあるかと思っておりますがよろしくお願いします。

**事務局井出次長** その前に、お願いします。割り込んですみません。その前に、横森委員さんの野沢温泉の例というお話があったわけですが、私の説明が悪くて大変申し訳ないと思います。野沢温泉村の場合は、小学校を統合するとかそういうことはしておりません。もともと1校しかないんです。保育園一つ、小学校一つ、中学校一つなんです。保・小・中という一貫をするための基本方針であり構想を作ったというのが4年かかった5年かかったということであって、統合とかは全くありません。小学校の統合はすでに終わっています。あくまでも保・小・中の一貫教育についての資料ですので申し訳ありませんがよろしくお願いします。

**林 委員長** ありがとうございます。さきほどの説明の中に、保育園を教育委員会の管理に移したという言葉がございました。通常は保育園は厚生省の傘下にあってこの村では住民課の管轄下にありますが、それを数は少ないですけど管理を移したということになかなかそうだったのかということを感じました。ところで南小の校長先生、頭が痛いかもしれませんが一ことお願いします。

**町田喜範 委員** はい。北小と南小で一緒に交流学习を何度もしているというのは、前回お話したとおりです。それに加えて、11月に北小・南小の職員が集まって授業研究会を行っております。今年は南小ですが、一緒に授業を見てもらって、その授業について一緒に話し合ったり、授業のことについてお互い意見交換する中で勉強し合うということなんですが、それも職員同士の意識の交流する場となっている。それと同じ指導をしていく場にもなっているかなということを感じます。また、学年同士で情報交換をして、こんな活動をやっているよということを情報交換して、いい内容であればお互いに揃えていこうという形で中身の面からも揃えていけばということで連携を図っていける部分もあるかなと。ゆくゆく統合となってもそういうことを先に進めて行くことができるかな、共通理解していくことも大事なかなと考えています。

**林 委員長** ありがとうございます。

**矢野勝彦 委員** 北小でございます。南小の校長先生と同じようなこと考えておりましたので、その部分は繰り返し申し上げますけれど、別に思ったことがございます。前から思っていたんですが、やはりこういう子ども達の中で、学年単位でとか教職員も交流を

深めて、将来中学に行ったときに一緒にいる子ども達ですので、それを私たちも目指していくということは今までも大事にしたいと思いやってきたところであります。やはり学校運営を南と北と比べてみますと、微妙にやはり違いがあり、村の皆様にも広くお示しをすればよかったなと思うんですが、私の下で教職員が考える学校の方向、運営方針ですね、グランドデザインといいますけれどもいわゆる学校運営の設計図がございます。そういったところも南北見ていくと、微妙に思いとか理念とか運営の具体とか、例えば基礎学力を南小ではこういうふうにつける、このようにやっていく、北小では同じ教科書の学習内容を、例えば基礎をこのように定着していきますよ、それぞれ学校の地域に住む子どもさん達の実態とかにそういったものにに応じて考えていくわけです。そういったところを知っていただくことも、どういう子どもを育てていくかということを皆さんに考えていただく、ひとつのポイントにもなるのかなということを思っております。学校の我々がお役に立てるということを考えると、今の学校のありようも我々の方からお伝えをしていくことも大事なかなと思っています。

**林 委員長** はい、たいへんどうもありがとうございました。公募の井出委員さん、ちょっと話を戻してご意見を賜りたいと思いますが。

**井出真紀 委員** 私は皆さんと同じように小中一貫校、もし可能であればそういうようにして行って欲しいなと思っています。ただ建設の現地、建設される所がどこなのかということによって子ども達の通学の時間ということが関係してくるのと、それによって親御さんたちも難色を示してしまうこともあると思うので、そういったところをまた検討いただけたらいいのかなって思います。それと信濃町の義務教育学校を視察させていただいたときに思ったんですけれども、学校紹介のスライドの中で、子ども達がとてもキラキラ目を輝かせながらのびのびと活動している姿を見て、すごい素敵だなあって思いました。お兄さんお姉さんのカッコいい姿を見て、小っちゃい子ども達はいつか僕たちもあんなふうになれたらいいなあって憧れたり、逆に中学生は、小学生のあどけない姿に癒されそういう関係が生まれているのかな。ケアリングとヒヤリングとおっしゃってましたかね。そんな話があったので小中一貫校でやっていただけたらとありがたいと思いました。そして取組みの経過を見ると、かなりの時間をかけてますよね。南牧村ではどのくらいの年数をかけて開校していくのか分からないんですけれども、子ども達のことを村民の皆様のことを、いろいろお話を聞きながら学校づくりをしていていただきたいなと思いました。個人的にすみません、新しい学校、もしできるとして、どんな学校にして欲しいかなと思ったことがあります。一人ひとりの子ども達が、のびのびと意欲的に学べる学校であってほしいと思います。残念ながら南牧の北小には、空き教室も特別教室もないんです。なので個別で学習するスペース、プランバシーを守りながらゆっくり悩みなどを聞いてあげられるスペースがありません。南小のようになかよしさんやあおぞらさんの特別教室ももちろん欲しいんですけれども、学習支援に差があるお子さんが自分のペースで学習できるスペースですね、それが信濃町の小中一貫校の方にはリ

ソースルームというのがあったですかね。そんなスペースも欲しいかなあって思いました。そしてオープンなティーチャーズステーションがあって、囲われている職員室って子ども達入りづらいと思うんですけども、学びとしてすぐ先生に聞けたりとか、勉強だけでなくおしゃべりができたりとかできるスペースがあっていいなあって思いました。子ども達に、解った、できたという成功体験につなげる学習にしていってほしいと思います。成功体験を重ねていくことで、グループ学習や個人の発表でも自信を持って自分の考えを言えるようになってほしいと思います。南牧の子ども達を見ていると、保育園から一緒ということもあるんでしょうか、昔からの関係もあるのかな、相手に遠慮して自分の考えや意見を言えない子もいます。しっかりその子達、考えとか持っているんですけども、なかなか表に出せないのが残念でなりません。みんなが同じ考えでなくて、ちょっと違った考えを出してもいいんじゃないかなって思うんですけども。ちょっとそういうところがうまく言えないところが悲しいなって思います。いろんな意見を出し合いながら、みんなでいい方向へ導いてほしいなってことを思います。そして自分の個性を磨いていってほしいと思います。子ども達が主体的に動くことができる、一人ひとりが輝ける学校づくりをしていってほしいと思います。余談なんですけど、9月に行われた北小の運動会の片付けの時に、応援に来ていた中学生、おもに中学1年生なんですけれども、閉会式が終わると誰から言われたわけでもないと思いますが、みんながそれぞれの場所で率先して片づけを手伝っている姿があったんですね。とってもありがたいことだと思います。私はそんな子ども達がとっても素敵だなあって、そんな卒業生でうれしいなあって思いました。そんな先輩たちを見て、小学校の子ども達はどう思ったでしょう。長々とすみません。

最後に北児童クラブの支援員としてお願いというか、今お話ありましたけれども、児童クラブができるようなお話ありましたけれど、少しお願いしたいですけれど、以前お話したと思いますが、共働きの家庭が増えてきて、実は少子化といいながら児童クラブの登録人数は50人以上超えています。北児童クラブで。一日の利用人数が平均して20数名から30数名、夏場は40人近くの児童が利用します。この人数ですと中央公民館の2階ではあまりにも狭くて、庭が無いために外では遊びができません。放課後、広いホールも部活があるために、児童クラブの子ども達、遊びが限られています。子ども達をのびのび遊ばせてあげたいので、できれば新しい学校ができるとしたら、併設もしくは隣接で考えていただけたらありがたいなと思います。子ども達は遊びの中から色々なことを学んでいます。できれば広い場所、広い庭、そういったところで遊ばせていただけたらと思います。夏休みなんですけれど、北小学校の体育館と校庭をほぼ毎日のようにお借りしました。そのおかげで子ども達はおもいきり体を動かすことができて良かったです。合鴨などのお世話もできて、とても大喜びでした。それで新しい学校ができる際には、できれば児童クラブ隣接、併設をお願いしたいと思います。長々とすみません、以上です。

**林 委員長** いえ、たいへん示唆に富んだご意見をありがとうございました。そして最初に平沢の区長さんおっしゃられていましたけれども、場所が問題なんだということは、私たち学校づくり委員会は用地の問題はとりあえず考えないということで来てますけれども、それはそれで大変重要なことのような気がいたします。今後、私たちこの学校づくり委員会の使命を考える上で、そのことも次の人に託すことにしても、考えて行かなければならない問題だと思いました。そして今、たくさんのご提案をいただきましたけれども、ホームページの議事録に全部きちんと載りますので、それは貴重なご意見として採用されるご意見もたくさんあろうかと思います。さきほどの井出正吉さんの誇れる学校というようなご意見も、私たちは次の学校の姿として考えて行かなければならないと思っています。ところで、今日は専門部会でいろいろ検討されたことを、今日は全体会議で報告しているという形でございます。専門部会に出ておられないPTAの会長さん方、保護者会長さん方、一つご意見を賜ればと思いますが。よろしくお願いします。

**佐々木 委員** この委員会ができて小中一貫教育について色々と勉強させていただく中で、やはりこの①②③の選択肢の中で、3番の小中が一緒の学校というのが目指したいところであるなど感じています。しかし、地域柄のこととか考える中で、佐久穂の小中学校の現在の姿になるまでの過程を見る中で、段階的な統合というのが選択肢としてあるんじゃないかと思いました。ですので選択肢として①②③だけでなく、4つめの段階的な統合というのを、選択肢にあっていいんじゃないかなと考えました。どういった段階的な統合かというのと、南小はとりあえず南小として存続して、北小と中学校の統合というか小中学校のその2校にしてみるというか、段階的に、目指すものは最終的に村で1校の小中学校があればいいじゃないかなと思うんですが、場所的な部分だとかそういうことを考えると、北小と中学校の統合っていうか、それをまず行って、南小はその経過を見守る中でまた考える。あるいは場所についても、その経過を見る中で考える、そういったことも考えられるんじゃないかなというのが一つ思いました。これは余談であるかと思うんですが、10年前に統合の問題が盛り上がって、10年間の時間というのをやっぱり無駄にしたいくないと委員長が発言されていましたが、しかしその10年間というのは決して無駄な時間でなかったと思うんですが、具体的にこういう委員会が立ち上げられて、みんなの中で話し合いがされるようになったのは、この1年というか最近の話なので、やっぱりもっとこのことについて村民が議論できる期間というのは必要なんじゃないかなというのが正直なところです。以上です。

**林 委員長** はい、ありがとうございました。事務局でいかがでしょうかね。今の段階的な統合ということについては、なかなか今すぐお答えするってことはできないかもしれませんが。承っておくということでよろしゅうございますか。はい、よろしくお願いします。

**事務局井出次長** お願いします。それは全く発想が無かったお話なので今整理がつかないんですが、南小はそのまま存続、北小と中学の一貫というかそれは施設分離型で。

**佐々木 委員** それはとりあえずできる形でなので、その小中一貫校がこんなにいいメリットがあるんだよというのが、形として村民に知れ渡っていくためにはいいんじゃないかなと気がします。佐久穂の小中学校はそういう形で、近くの小学校は後から一緒になる形ですんなりとみんなが一緒になった経過がありましたね。

**林 委員長** はい。

**新海勝則 委員** ちょっといいですか。佐久穂は計画的に統合していったというようなあれですけど、私あそこの出身なんですけれども、だんだん小学校も数が少ないからやむなく統合して行って、最後にああいう形になっていったんでよね。計画的にというより、佐久東小学校なんて最後はかなり数が減って行って、それをもうしょうがないから中央小学校に統合して、その時点から小中一貫校とかああいう目標を考えていなかったと思うんです。それでも佐久町で2校ぐらい、あと八千穂で、それが今合併してそういうことであれしたんだと思うんですよね。数1校多かったんですけどもあれはやむなく。

**佐々木 委員** 多分、結果としてはそうだと思うんですけど、最後に一緒になった小学校のPTAは、一緒になるのはやだって言ってそれでポツンと小学校が残って小中学校が一緒になったのと、最後に1年だか2年だかして、やっぱりあそこに入ろうということになって今の形になった。

**新海勝則 委員** 八千穂の小学校ですか。

**佐々木 委員** だと思います。説明された資料によると。

**新海勝則 委員** あれは段階的というよりも。

**佐々木 委員** 結果として。

**新海勝則 委員** でもあれは校舎を作っている間に、一緒に統合しましょうということで一緒になったんじゃないですか。確か。学校は作っていて、最終的には一緒に統合されたんでしょ。確かそうですね、皆さん。

**事務局井出次長** 委員長すみません。佐久穂は、八千穂小は最初に残る形になったんですけど、新しい学校を作る、八千穂小の子どもが来ても収容できる大きさを確保して作り始めているんですね。あくまでも統合、小中一貫を目指す中で後から八千穂が来ても収容できるような造りになっているんです。佐々木さんのおっしゃる、まず北小と中学校の一貫教育で南小だけ単独で残るというのは、新しい学校の建築を前提にしていないですよ。既存の校舎で施設分離型の小中一貫ということですよ。

**佐々木 委員** とりあえず、はい。

**事務局井出次長** 今までの委員会の中で、学校の老朽化という話をしているかと思います。特に中学校の雨漏り、中学校が一番古いんですけども、雨漏りが、体育館は雨が降るたびにすごいことになっているんですけど、やはり老朽化による建築、改築というものがようになってきているんです。それは、現状として、北小、南小は危機的ではないかもしれませんが、いずれにしてもすでに30数年、長くてもあと10年以内には新しい学校を作ることを考えて行かなければならない。ですからこの小中一貫、施設分



離型でも一体型でもいいかもしれませんが、そうすると校舎はどうするということを考えていかなければいけない。そうした場合に、せっかく作るんなら今おっしゃる例によると、北小と中学校は校舎一体型で小中一貫にさせるのか。そうすると南小の子どもが入れるスペースを確保して作ることになろうかと思います。運営上の小中分離型で、確かに距離は近いですから両小野学園の1キロというのと似かよっているかもしれませんが、あまりメリットが無いかもしれません。現状として南小の児童数が多いので、北小と中学校が先行というのはいかがなものかと思います。

**林 委員長** はい、ありがとうございました。海尻の区長さん、さきほど何かございましたか。

**井出正吉 委員** 10年前と今の学校の児童数とか環境が変わってますよね。これから5年10年すると環境がもっと悪くなると思うんですよね。そうするとあんまり悪くならないうちに手をうって、いい環境で勉強した方がいいと思いますよ。だから5年かけろ10年かけろと言っても今相当悪い環境にあると私は思います。だからこれを打開するにはどうするかということで、話をしていかなければだめじゃないですか。

**林 委員長** はい、ありがとうございました。私も中学校の集落懇談会がございまして、私市場の集落懇談に、たまたま民生委員として出たんですけど、その際、委員長でありましたので学校づくりのことを報告して、保護者の意見を伺いました。その際に一つ貴重な意見だったのは、ゆっくり時間をかけてやるのは確かに大切だけれども、もう一方でスピード感がとても大事と言われました。今の海尻の区長さんの意見のように、最低でも用地に何年、建築に何年、少なくとも4年くらいの年月がかかってしまうのです。出来上がった段階での社会の必要性に一部マッチしないことができてくるくらいに、今の社会の進行が速い。だからスピード感を持ってやってほしいという意見を、今も大切に持っております。それでは今のことは事務局に残しまして、PTA会長さん、専門部会に出てもらえないので、専門部会の報告に何かございましたら、なかなか指名はしたくないので、北小、南小、中学のPTA会長さん、もう一人の保護者会長さん、意見を賜ればと思いますが。はい、よろしくお願いします。

**高見澤要 委員** 保護者会長としてですけど、実は今の南牧保育園の年長ですが6名という少人数のクラスであるということで、10年前、小学校統合の議論したとき、今の中学2年生の全体でも11名でしたね、あの学年が小学校に入るまでに統合するというような流れの中で、統合の議論が進んだと思います。つぶれた経過というのはいろいろあるでしょうけれど、どこに統合するかということも重要なものだったと思うんですけれども。今、私の息子がいるクラスは、北小へ入学すれば6名のクラスになるんですけれども、親の気持ちとすれば、場所がどこになろうが、なるべく多い子の仲間と学年を組んでもらいたい。おそらく今、野辺山の年長さん、20名以上いらっしゃる、23とかね。そうすると、一緒になれば30名で1クラスになると思いますけれど、少ないクラスの親っていうのは、できるだけ多くの子ども達と一緒に学んでもらいたい、競争意識を持ってもらい

たい、という気持ちというのが実際の気持ちということです、できるだけ早く小学校一つになってほしいと思っています。それから心配なのはやはり中学校ですけれども、老朽化の話もありますが、中学校は3学年しかないのでから全体の生徒数がこれからどんどん減っていく中で、うちの村として中学校がいつまで維持できるのかと。単独で中学校作ったとして、その中学校が、南牧の中学校としてあり続けられるのか非常に心配です。やはり人数が減っていく中で、村の中学校を生かしていく、より良い学校にしていくということを考えると、小中一緒、この一貫教育というのが一番ベストなんじゃないかと。中学校がもし単独で建て替えをして中学校だけでやっていくとなった時に、最終的には他の市町村と組合立の中学校になってしまう、行ってしまうんじゃないかと危惧される感じがします。一番はそういうことかなと。

あともうひとつは、第1回に私出てないですけども、資料の中にあったんですが、中学校に共同調理場があることで、資料にあったんですがアレルギー対応食の施設がなくて対応ができないということ言っているということは、建て替えをして共同調理場を新たに作らないと完全対応ができないということが読み取れるんですけど、アレルギーの子が増えてきて対応ができない状況だと言っていますので、実際保護者は一刻も早く調理場を整備してもらいたいという気持ちがあると思いますので、それも含めて中学校の施設を建て替えるということになれば、小中一貫で併設あるいは一体型というのが一番望ましいんじゃないかというのが私の気持ちです。

**林 委員長** 大変貴重なご意見ありがとうございました。私も、信濃町、佐久穂両方にアレルギー完全対応の調理場があるということは、非常に印象付けられました。そして支援学級に入るような生徒さんは、今後も出てくると思っていますが、そういう生徒さんに手厚い支援があってほしいと。ということは南牧村が小さくなればなるほど大切な要素として考えております。ご意見ありがとうございました。PTA会長さん方、いかがでございましょう。あまりご指名はしたくないですが、ひとこと言ってしまうと。あとは時間も迫ってまいりましたので、今日は9時前に終了するという予定でございます。北小のPTA会長さん、ついに指名してしまいましたがよろしくお願いします。

**薩田聡 委員** PTA会長という立場なので、ここでどの案がいいということはちょっと言いにくいとがあります。ただ校舎が古いということも理解していますし、これからどういう学校になってほしいかという、そこがポイントになってくるんじゃないかと。地域の子どもは地域で育てるという言葉。あと、まとめの方にありましたけど、南牧村は一つだという意識を持つという言葉の中から、皆さんに説明して、村民の皆さんが共有できるような学校づくりをしていった方がいいんだろうなとだけは思っていますけど。なかなかちょっとむずかしいとは思いますが。

**林 委員長** 今の意見で十分、私たちにとっては千金の値があります。どうもありがとうございました。南小のPTA会長さん、いかがでしょうか。

**原和則 委員** 個人的なあれなんですけれど、生徒の現状が、学校の老朽化とかを考えると

やっぱり小中一貫の方かなと思うんですけども、さっき事務局さんが義務教育学校と小中一貫型学校では、南牧には義務教育学校がいい、向いているというかそういうふう  
に伺ったんですけども理由が分からないのでお願いします。

**事務局井出次長** さきほどの説明といたしますか、教育専門部会で小中一貫が望ましい、一番ヴィジョンを実現するための手段としてはいいだろうということで。ただ義務教育学校にするのか佐久穂町のような小中一貫型にするのかという結論は出しているわけではないということです。あくまでもそれは今後、小中一貫にするという意見がまとまれば  
どういう小中一貫にするか、それが義務教育学校かどうか。このQ&A集の中に、義務教育学校ではこういうことができるようになりますというまとめ方をしています。規模  
からしても、これからどんどん少なくなる学校になって、佐久町のように小学校、中学校  
が一緒にあってもそれぞれ単独で存続し、それぞれの教職員組織があって校長先生  
それぞれの下に職員組織があるよりは、義務教育学校で一人の校長の下一体的な運営を  
した方が。例えば乗り入れ授業ということが出てきていますけど、中学校の先生が小学校  
へ入って英語なり算数なり理科なり音楽なりを教えるのにスムーズにできるわけなん  
です。小中一貫型は佐久穂町でいうと、なかなか一緒にあっても乗り入れ授業とかがやり  
づらい。それは県の教育委員会の方針とかがあって、中学校の先生が小学校に行っ  
て教えた場合、それに対して小学校の先生が同じ時間数、中学校に行っ  
て教えなければいけ  
ない。取引みたいなことが現状行われています。義務教育学校であれば9年間の学校  
ですから、小学校の先生、中学校の先生という捉え方じゃないので、どの先生がどの学年  
教えようが一向に構わないわけなんです。英語の教科も小学校に下りてきます。中学  
の音楽の先生が小学校で音楽を専門的に教えることもできますし、運営上では義務教育  
学校の方が南牧の学校の規模を考えるとスムーズにできるということであるかと思  
います。  
もし解説が間違っていましたら校長先生方お願いします。

**林 委員長** いかがですか。先生方。

**武井晃 委員** 今の次長さんの言った通りなんですけれども、例えば具体的に、現状の佐久  
穂を見ますと、少なくとも小学校の先生は小学校の勉強、中学校は中学校の勉強して  
いるだけなんです。小学校は小学校の勉強しか、中学校は中学校の勉強しかないと  
なると中学校から小学校へ行けないですね。ただ中学校の場合、理科なら理科だけ  
を教えるなら小学校行けます。それから英語なら英語と。ところが小学校の先生が、  
5・6年で教科制で算数を中学校の先生が教えることはできるけれど、その分小  
学校から中学校へ中学校から小学校へ来た時数の分だけ小学校から中学校へ行  
かなければいけないんです。そうすると、小学校の先生はほとんど担任です  
ので、仮に免許持っていたとしても中学校へ行けないということで、なかなか  
小学校と中学校の先生が交流して教えて行くということが難しいという状態  
です。それに対して信濃小中義務教育学校は、小学校中学校両方の免許持  
ってる先生たちが集まっていますから、それがスムーズにできるということ  
が大きく違うことかと。特に中学校で小さい学校だと、音楽の先生または美術  
の先生は

非常に持ち時間少ないです。持ち時間少ないですけれど複数の免許持っていればいいですけれども、週5時間くらい、他の教科を持つことができないです。ところが小学校と一緒になっていれば小学校の音楽を持つことができる。音楽の先生が小学校と中学校の両方で時数持つことができるということが義務教育学校はできるかなということです。

**林 委員長** 十分大切なご説明でした。ありがとうございました。南小のPTA会長さんよろしゅうございますね。ありがとうございました。中学校のPTA会長さんお願いします。

**井出嘉也 委員** お話をいろいろいただいて、委員長さんのご意向に反するかもしれないんですけど、個人的には③番の小中一貫がベストになってくるんだろうなという気持ちはするんですが、さきほど北小のPTA会長さんが言われたとおり、PTAを代表する必要はないと当初言われたので、専門委員会がまとめられたこの南牧村の教育ビジョンを読ませていただいて、やっぱり強調されているのが地域が担っていくということであって、同じ歩調で、地域の子どもは地域の責任で教育する、という形がはっきり謳われているので、とりあえず地域の皆さんに問うてみることを第一に考えてみるのがいいような気がするんです。その信大の先生の報告にもあちこちありますけれども、94ページの終章という所を見ると、真中のちょっと下の所なんですけれども、過疎地の廃校になった所の学校はすでに100周年を経過したところがあって、学区毎の伝統的な習慣も維持されているエリアが多いと。そういう一般的な面が強いということで、これはほんとに軽視できなくて、それぞれの住民と丁寧な会話を進めた分だけ統合後の学校に対して地域の関係者がサポーターになると言っても過言ではないとあるように、やっぱり地域に対する説明と、地域に対する姿勢がとりあえず大事なのかなと。この場で①だ②だ③だと決定することは、まだ早計というか尚早というかそういう気がします。あと希望としましては、この研究報告書の最初にあるように、1ページのはじめにという所なんですけれども、学ぶ側の理論で考えて行くということが一番大事なのかと。発表が苦手で申し訳ないんですけど。報告書を見ると、大人の理論が主に書いてある。当然大人が書いているからそういうことになるんでしょうけれども、学んでいる子ども達の立場、当然ここに学校の先生方いらっしゃるんでお詳しいと思うんですけど、そういうことをもう少し見て行く、方向というか姿勢も必要なのかなという気がします。以上です。

**林 委員長** はい、ありがとうございました。その辺のところでいかがでしょう。教育長、何かコメントございましたらよろしくお願いします。

**井出教育長** はい。いままで各委員さんご意見いただきまして、本当にありがとうございます。本当に色々な意見出ております。それを一本にするのはなかなか難しいことです。我々が村長から諮問を受けている中で、そろそろ答申の原案をですね、まとめていかなければいけない時になっているかと思います。今、委員さんの中には場所の問題、遠くなること、それから支援学級の必要性とか複合化をお願いしたいとか、あと給食のことだとか建物の問題とかいろいろ出ておりますので。意見いろいろ出ました。なかなか一

本にするのは難しいと思いますけれども、だいたいの意見の中では小中一つにした方がいいんじゃないか、避けられないんじゃないかという声が多いように私は思っています。ですので、そろそろ原案を作って皆さんにお示ししなきゃいけない時期になってきているかなという気がいたします。当然答申の中には、今いろいろ言われた部分が盛り込まればいいんで、また皆さんのご意見を聞ければと思っています。さきほど学校の施設のことについて老朽化が進んでいるという話があったわけですが、実際、学校の老朽化はしています。それから高見澤委員さんがおっしゃったように、給食もこんな状態です。冷房もないような給食室、調理室。それからもう一つ、学校の先生方がみんな遠隔地で、村で用意した宿舎に入っているんですが、そこも老朽化が非常に進んでいる。特に南小は大変な状況ということで、施設面から見ても全部そろそろ見直さなければいけない時期に来ているかなというところがございます。そんなところで、何回か会議をやってきたなかで、そろそろ答申の原案の作成をさせていただきたい。今日貴重な意見いっぱいいただいております。それでさせていただきたいということを私は思っているわけですが、委員長さんどんなものでしょうか。

**林 委員長** さきほどの中学のPTA会長さん、委員長の意向に反するかもしれないがというお話ございましたが、私の意向に十分沿った中学のPTA会長さんの意見でございました。しかし、今度の11月7日ということを提示してでありまして、冬を間近に控えた季節になります。PTA会長さんの任期も来年の3月で終了、これは事実でございますし、先生方の異動もあるいは考えられるということで、特に急ぐわけではございますが、この答申という村長から与えられた課題を一方では解決していかなければならないというふうに考えておりまして、今の教育長のご意見大変ありがとうございました。副委員長さん、お話をお願いします。

**渡邊 副委員長** 大勢の方の意見を伺いました。私たち教育委員の一人として、今までずっとこのことについて10年くらい、10年はないですけども、ずっと定例とかそういう時間、または新聞とか出てくるそういうものを小中一貫校の問題、教育委員の中で話してまいりました。八千穂の開校などもずいぶん話が出たりして、視察なんかも辰野町の両小野へ行ったり、私は群馬県みなかみの近くに行ったり静岡の浜松の、ちょうどこの南牧村と同じような5年くらい前に出来上がった小中一貫校を視察したりしてずっと勉強して参ったわけでありまして、今こうして皆さんの意見を聞いて、もう一点は10年前、統合の話が出たわけですけども、ちょうどそのとき私は議会の社会文教委員をやっている立ち会った経験がございます。その時は要するに川上との合併ということが先にありまして、それで自立をしなければいけないということで、本当にこういう機会を全然持たなかったということですね。こういう機会で見聞を言い合うということが一番大事なんじゃないかと。それで一步の段階をまとめて、その次の段階に行くということが一番重要ではないかと思うです。ですから、さきほど保護者会長の高見澤さん言われた、一番は子どもの少ないがネックだという、子どものことを考えて学校を考

えて行く、そういうものじゃないかと。要するに子どもの教育、どうしたら社会に出ても通用する、それから学校でも強く通用するという、子どもを中心に考えてこの問題を考えて行かなければならないということじゃないかと思います。これからまた教育委員会の中で話が出るわけですけど、皆さんの意見は十分に尊重して、そっちの方へ向いていきたいと思います。以上です。

**菊池武元 委員** ちょっと一言いいですか。えーとすみません。いろんな話がだんだん見えてきて、私も3ページの③の小中一貫教育がいいんじゃないかと思います。しかし、皆さん言われているように、仏を作って魂を入れずという言葉がありますけれど、教育方針とかまず絶対的に検討していただいて、より良いものにしていかないと、やっぱり作った方がいいけど魂が入っていないような教育じゃだめだと、そういうことと思っています。それとせっかく立派なこの望ましい教育環境の実現に向けてという学校づくりあり方のですか作っていただいたんですけども、読むのは教育次長が一部しか読んでくれなかったから全然目を通していない部分があるんですけども、16ページの望ましい教育環境の実現に向けて、I南牧村で小中一貫教育を実施する意義、意義ってあるんですね。目的とかじゃなく意義。(1)は全くこの通りだと思うんですけども、私がちょっと疑問だなと思うのは(2)のふるさと学習を通してうんぬんかんぬん書いてありまして、進学のため一旦この村を離れても将来戻ってこの村を創造できる人材を育むことができる、ことが意義ってなっていますけど、これはですね、私はこんな言葉ではないと思います。こういう教育ができたからって、人口減少の中で帰ってこれない事情ってのはいっぱいあるんです。生活とか人生の自分自身の安定とかいろんなことで。だからそのことは目標ではあっても目的ではあっても、こうすればこういう意義が達成できるということは絶対的に言えないと思う。やはり本人の将来、自分の安定性とかそういうことがあるので、この文章おかしいなと気がしました。分かっていますか。私はおかしいと思います。以上です。

**林 委員長** はい、ありがとうございます。時間も迫っておりますが、ひとこと次長の方からございますか。今の、16ページのIの(2)の、戻って来れる人材を育てることができる教育目標が。

**菊池武元 委員** いいです。応えてもらわなくていいです。

**林 委員長** いいですか。それではそのことを重く受け止めて4番に進みたいと思います。それでは時間が迫ってまいりました。ホームページには少し時間差がありますが、細かくありまして、これはとても好評で、私どもあんなこと言っているという批判的な意見を聞いたことはありません。私たち自身の資料としても活用しておりますので、どうぞ、また自分たちの考えをまとめていくのにお役立ていただければと思います。それでは今日はこれで終わりにさせていただきます。大変どうも皆様ありがとうございました。

**事務局井出次長** すみません。その他で事務局からお願いいたします。次回の開催通知、お手元に既にお配りしてございますが、11月7日月曜日7時ということでお願い致します。

す。それから議事録の関係ですが、前回の第4回の委員会の議事録まだ完成しておりません。極力頑張って作って早く載せたいと思っております。よろしくお願いします。1回目までは確かプリントでお配りしてあると思うんですが、それ以降必要な方はホームページ見ていただきたいと思います。紙で必要な方は言っていただければ印刷したいと思います。以上ですが、今日はたいへん活発な議論ありがとうございました。また次回、さらに深化した深まった議論を期待したいと思っています。ありがとうございます。それでは副委員長の方で閉会をお願いします。

---

◎閉会の宣告

**渡邊 副委員長** それでは皆さん、長時間貴重な意見を出していただきありがとうございました。以上をもちまして、第5回学校づくり委員会を閉会といたします。ご苦勞様でした。

閉会 午後9時00分